

人工衛星を使って生育診断 Z-GISが「天晴れ」と連携

人工衛星リモートセンシングによる作物診断サービス「天晴れ（あっぱれ）」の申し込みに、Z-GISで作成した圃場地図が使えるようになりました。診断結果もZ-GISで見ることができます。

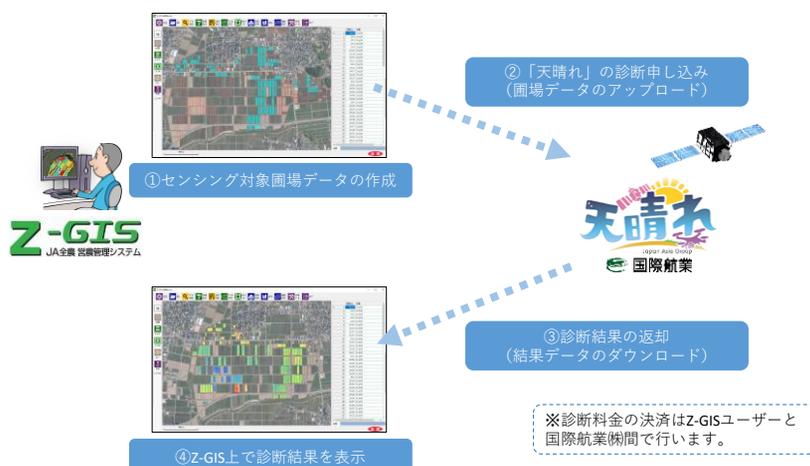
画像を解析して水稻、小麦、大麦、大豆の生育を診断

小麦の収穫時期が近づいていますが、収穫する順番を決めるのに悩んだことはありませんか。また水稻の圃場間の生育ムラが気になったことはありませんか。

国際航業が提供する「天晴れ」は、水稻、小麦、大麦、大豆を対象に、人工衛星で撮影した画像を解析し、葉色や水分含量、タンパク含量を解析するサービスです。

1,000ha（圃場以外も含む面積）から診断依頼が可能で、利用料金は1作物1項目5万円から。北海道を中心に導入が進んでおり、本州でも利用者が拡大しています。また、令和2年3月には内閣府による「第4回宇宙開発利用大賞」で、農業分野での人工衛星リモートセンシング技術の普及に対して「農林水産大臣賞」を受賞しました。

Z-GISとの連携で「天晴れ」の利用が便利に

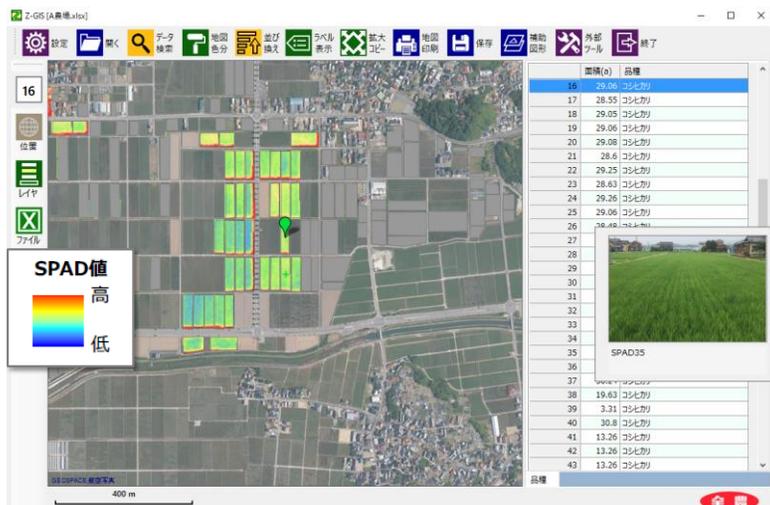


Z-GISと天晴れの連携イメージ

この「天晴れ」の利用申し込みに、Z-GISで作成した圃場地図が使えるようになりました。また、診断結果をZ-GIS上で見ることも可能です。Z-GISの機能を使うことで、例えば①複数の経営体で診断を申込み、自分の圃場だけ結果を抜き出す、②様々な作付け品種の中からコシヒカリだけを抜き出すといったことが可能となります。

全農はZ-GISと「天晴れ」の連携マニュアルをホームページ上で公開し、農業現場においてサービスの利活用を進めます。

○営農支援サービス天晴れ: <https://agriculture.kkc.jp/>
 ○Z-GISを用いたリモートセンシング作物診断マニュアル: <https://z-gis.net/99/usage/index.html>



天晴れの診断結果（Z-GIS上に表示）